

2021年3月期 決算説明資料

2021年5月14日
株式会社加藤製作所



I. 2021年3月期 連結決算概要

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 連結業績サマリー | P.2 |
| 2. 連結業績推移 | P.3-P.4 |
| 3. 連結損益計算書 | P.5 |
| 4. 営業利益の増減分析 | P.6 |
| 5. 連結貸借対照表 | P.7 |
| 6. 連結キャッシュ・フロー計算書 | P.8 |
| 7. 連結主要品目別売上高推移 | P.9-P.12 |
| 8. 連結仕向地別売上高推移 | P.13 |

II. KATO Reborn Project

P.14

III. TOPICS

P.15-P.17

連結業績サマリー

- 国内売上高及び海外売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響から第1四半期をボトムに徐々に回復するものの、前年同期に比べ大幅に減少
- 生産調整による在庫調整と経費削減に努めるものの、生産効率が悪化。売上高の減少にともなう売上総利益の減少により各利益が減少
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産(ホテル)の減損損失704百万円を計上し、当社の繰延税金資産を取崩したことにより想定を上回る法人税等調整額2,941百万円を計上した事により大幅に減少

	前期実績 (2020年3月期)	当期実績 ※ ¹ (2021年3月期)	(単位：百万円) 前年同期比 ()内は増減率
売上高	77,894	58,519	△19,374 (△24.9%)
営業利益	△282	△2,810	△2,528 (-)
経常利益	△444	△1,921	△1,477 (-)
親会社株主 当期純利益	△1,329	△5,738	△4,408 (-)
1株当たり 配当金 (円)	中間 15.00 期末 15.00 年間 30.00	中間 00.00 期末 10.00 ※ ² 年間 10.00 ※ ²	

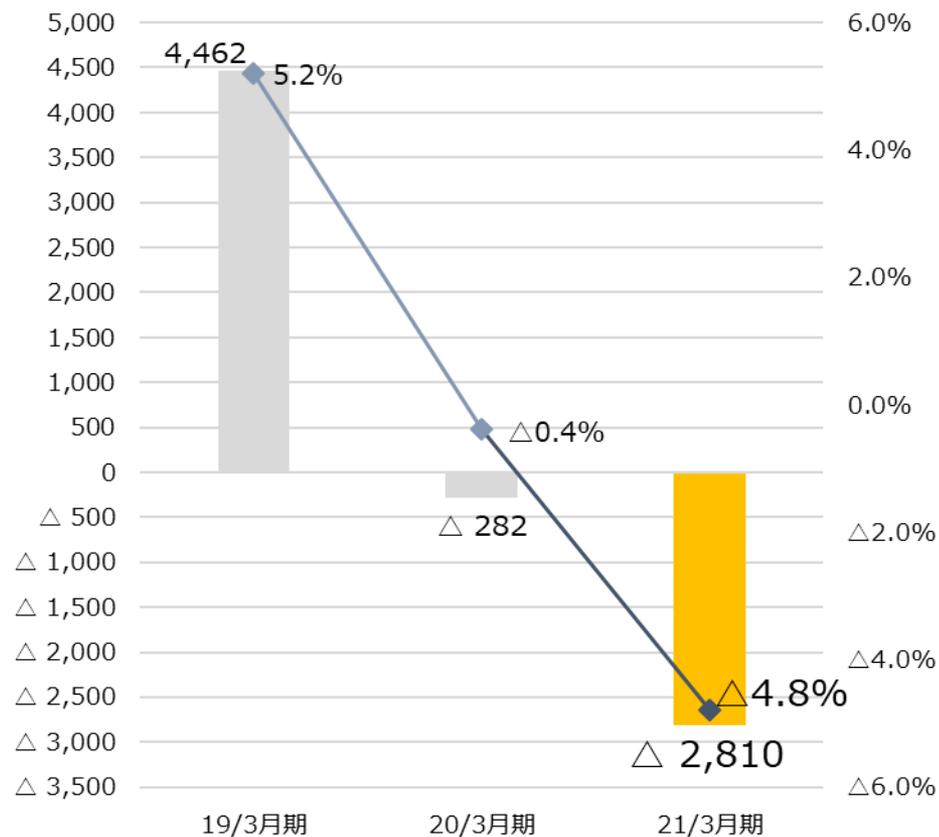
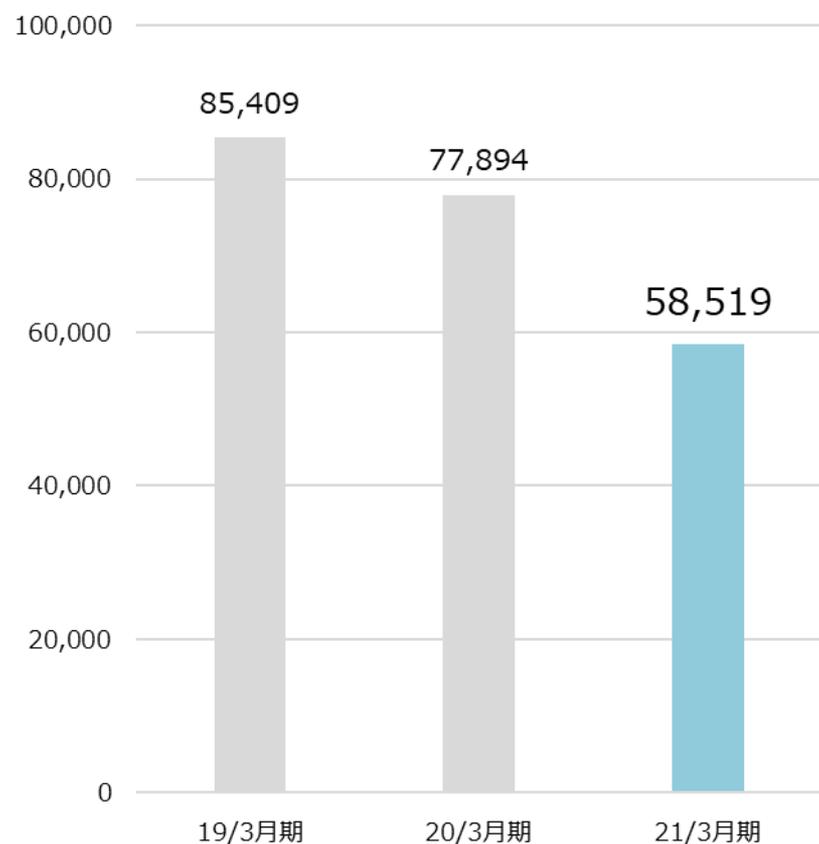
※¹ 非連結子会社であった三陽電器株式会社は当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

※² 2021年3月期の1株当たり期末配当金は、2021年6月29日開催予定の第122回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

(単位：百万円)

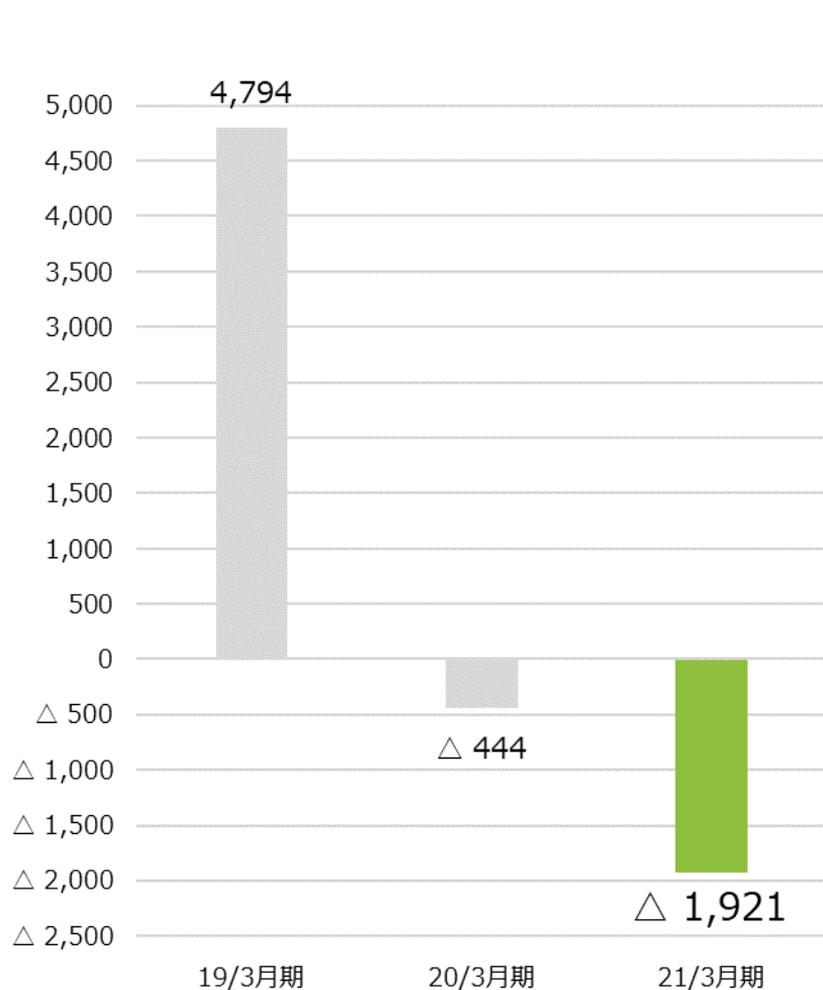
売上高

営業利益・営業利益率

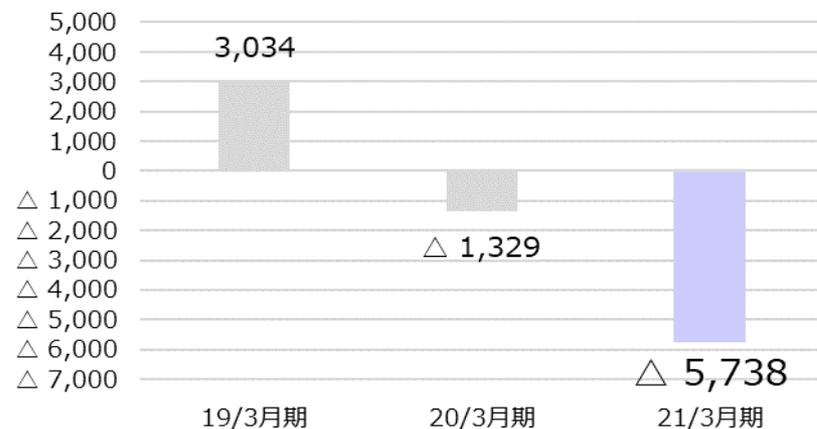


(単位：百万円)

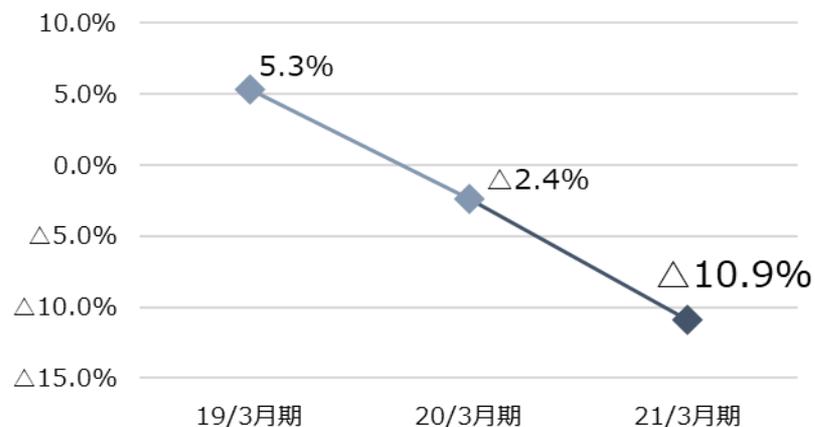
経常利益



親会社株主当期純利益



ROE (自己資本利益率)



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	77,894	100.0%	58,519	100.0%	△ 19,374	△24.9%
売上原価	68,607	88.1%	52,888	90.4%	△ 15,718	△22.9%
売上総利益	9,287	11.9%	5,631	9.6%	△ 3,655	△39.4%
販管費	9,569	12.3%	8,442	14.4%	△ 1,127	△11.8%
営業利益	△ 282	△0.4%	△ 2,810	△4.8%	△ 2,528	-
営業外損益	△ 161	△0.2%	888	1.5%	1,050	-
経常利益	△ 444	△0.6%	△ 1,921	△3.3%	△ 1,477	-
特別損益	△ 786	△1.0%	△ 595	△1.0%	190	-
税前利益	△ 1,230	△1.6%	△ 2,517	△4.3%	△ 1,286	-
法人税等	89	0.1%	3,231	5.5%	3,141	3512.6%
非支配株主当期純利益	9	0.0%	△ 10	0.0%	△ 20	-
親会社株主当期純利益	△ 1,329	△1.7%	△ 5,738	△9.8%	△ 4,408	-
ROE		△2.4%		△10.9%		△8.5ポイント

▶ 売上高

- 連結売上高は、前年同期比で△24.9%の減少
(国内売上高△23.8%の減少。海外売上高△27.5%の減少。)
- 海外売上高比率は、前年同期28.2%から27.2%へ減少

▶ 営業外損益

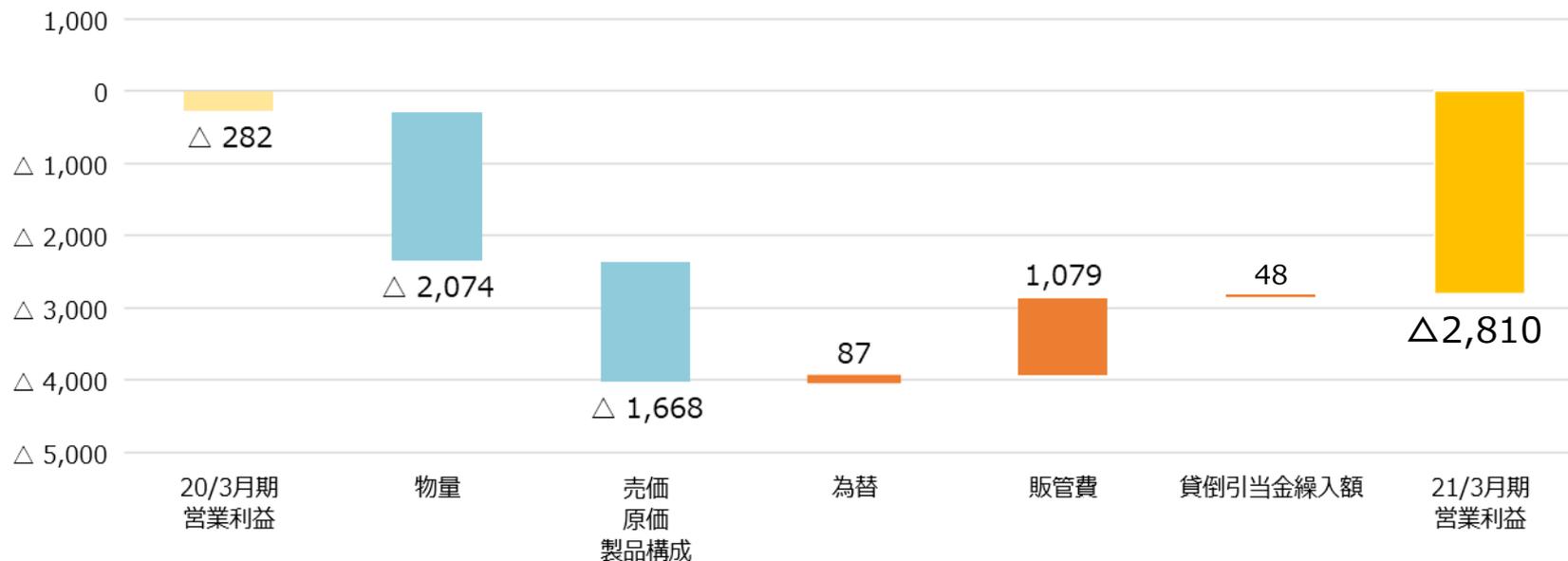
- 営業外収益は、1,619百万円 (前年同期493百万円)
- 貸倒引当金戻入等が増加
- 営業外費用は、731百万円 (前年同期654百万円)

▶ 経常利益及び親会社株主当期純利益

- 経常利益は、前年同期比△1,477百万円減少
- 親会社株主当期純利益は、固定資産(ホテル)の減損損失704百万円、繰延税金資産の取崩したことにより、法人税等調整額2,941百万円を計上し、△4,408百万円減少

営業利益の増減分析

(単位：百万円)



▶ 営業利益増減要因

- ・物量の減少により
- ・売価/原価/製品構成の変動により
- ・為替の変動により
- ・販管費の減少により
- ・貸倒引当金繰入額の減少により

△2,074百万円

△1,668百万円

87百万円

1,079百万円

48百万円

▶ △2,528百万円

連結貸借対照表

(単位：百万円)

			2020年3月期		2021年3月期		前期末比
			金額	比率	金額	比率	増減額
資産 の 部	流動 資産	手許資金	11,101	8.9%	14,782	12.8%	3,681
		売上債権	39,284	31.3%	32,813	28.3%	△ 6,470
		たな卸資産	45,291	36.1%	40,814	35.2%	△ 4,477
		その他	△ 2,270	△ 1.8%	△ 2,715	△ 2.3%	△ 444
		流動資産計	93,406	74.5%	85,694	74.0%	△ 7,711
	固定 資産	有形固定資産	25,142	20.1%	25,235	21.8%	92
		無形固定資産	467	0.4%	422	0.4%	△ 45
		投資その他の資産	6,376	5.1%	4,469	3.9%	△ 1,906
		固定資産計	31,987	25.5%	30,127	26.0%	△ 1,859
	資産合計		125,393	100.0%	115,822	100.0%	△ 9,571
負債・ 純 資産 の 部	負債	仕入債務	21,104	16.8%	12,253	10.6%	△ 8,850
		有利子負債	43,357	34.6%	46,512	40.2%	3,154
		その他	5,362	4.3%	5,561	4.8%	199
		負債計	69,824	55.7%	64,327	55.5%	△ 5,496
	純 資産	利益剰余金	43,539	34.7%	38,188	33.0%	△ 5,351
		評価換算差額等	1,010	0.8%	2,312	2.0%	1,302
		その他	11,019	8.8%	10,993	9.5%	△ 25
		純資産計	55,569	44.3%	51,494	44.5%	△ 4,074
負債・純資産計		125,393	100.0%	115,822	100.0%	△ 9,571	

▶ 売上債権の減少

39,284百万円 → 32,813百万円
→ 売上債権回転期間は20.6日悪化
(20/3月期 : 184.1日
21/3月期 : 204.7日)

▶ たな卸資産の減少

45,291百万円 → 40,814百万円
→ たな卸資産回転期間は42.4日悪化
(20/3月期 : 212.2日
21/3月期 : 254.6日)

▶ 仕入債務の減少

21,104百万円 → 12,253百万円

▶ 有利子負債の増加

43,357百万円 → 46,512百万円

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

		2020年3月期	2021年3月期	
		金額	金額	
営業キャッシュフロー	税前利益	△ 1,230	△ 2,517	
	減価償却費	2,103	2,133	
	売上債権増減額	4,245	7,655	
	たな卸資産増減額	△ 2,359	4,824	
	仕入債務増減額	△ 5,067	△ 9,066	▶ 仕入債務の減少 → 生産調整による原材料等の減少
	その他	207	△ 321	
営業キャッシュフロー計		△ 2,100	2,709	
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 6,530	△ 2,999	▶ 固定資産の取得 → ホテルの建設等による支出
	その他	△ 31	△ 101	
	投資キャッシュフロー計	△ 6,562	△ 3,101	
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	6,284	3,139	▶ 有利子負債の増加 → 運転資金及び手許資金確保により増加
	その他	△ 655	△ 153	
	財務キャッシュフロー計	5,629	2,986	
増減額	換算差額	△ 219	230	
	増減額計	△ 3,252	2,825	
現金及び現金同等物の期首残高		14,255	11,101	
新規連結に伴う 現金及び現金同等物の増加額		98	688	
現金及び現金同等物の期末残高		11,101	14,614	
有利子負債残高		43,357	46,512	

連結主要品目別売上高推移

(単位：百万円)

	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	44,241	51.8%	42,667	54.8%	30,320	51.8%	△ 12,347	△28.9%
海外売上高	7,587	8.9%	5,145	6.6%	4,453	7.6%	△ 692	△13.5%
計	51,828	60.7%	47,813	61.4%	34,773	59.4%	△ 13,040	△27.3%
油圧ショベル等								
国内売上高	12,509	14.6%	12,244	15.7%	10,682	18.3%	△ 1,561	△12.8%
海外売上高	19,630	23.0%	16,785	21.6%	11,459	19.6%	△ 5,325	△31.7%
計	32,139	37.6%	29,029	37.3%	22,142	37.9%	△ 6,887	△23.7%
その他								
国内売上高	1,400	1.6%	1,031	1.3%	1,604	2.7%	572	55.5%
海外売上高	41	0.1%	19	0.0%	-	-	△ 19	△100.0%
計	1,441	1.7%	1,051	1.3%	1,604	2.7%	553	52.6%
合計								
国内売上高合計	58,151	68.0%	55,944	71.8%	42,607	72.8%	△ 13,336	△23.8%
海外売上高合計	27,258	32.0%	21,950	28.2%	15,912	27.2%	△ 6,037	△27.5%
計	85,409	100.0%	77,894	100.0%	58,519	100.0%	△ 19,374	△24.9%

国内売上高は減少

→ 建設用クレーン：新型コロナウイルス感染症の影響により、売上高は減少

→ 油圧ショベル等：ショベル・ミニショベルともに売上高は減少

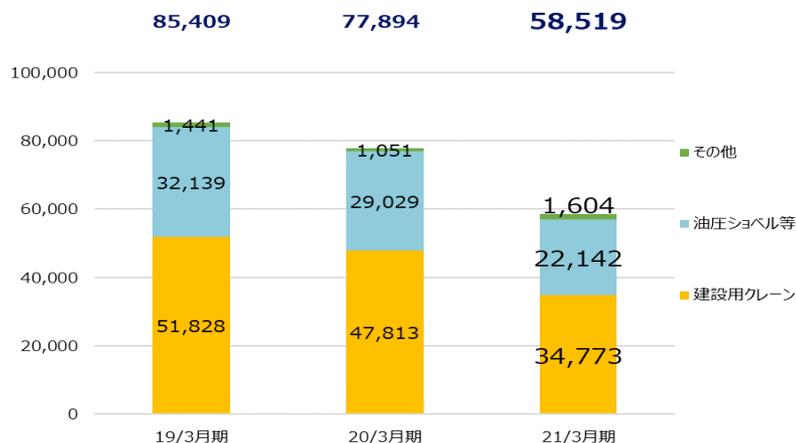
海外売上高は減少

→ 建設用クレーン：台湾やロシアへの輸出は増加したものの新型コロナウイルス感染症の影響により、需要は減少し、売上高は大幅に減少

→ 油圧ショベル等：新型コロナウイルス感染症の影響により、売上高は大幅に減少

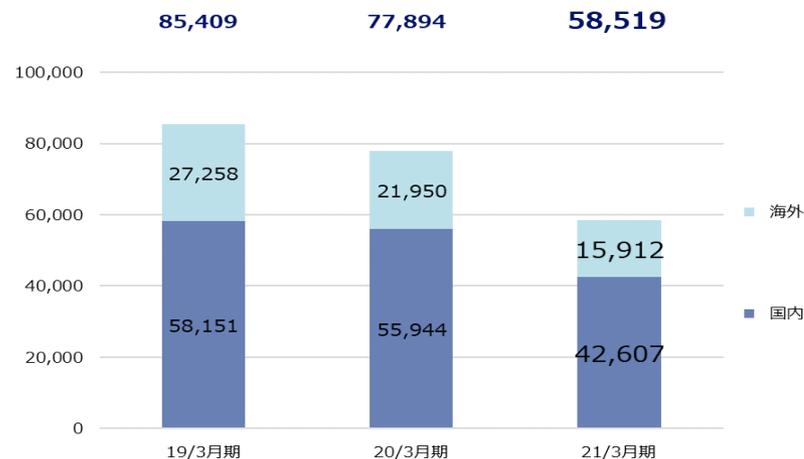
主要品目別売上高推移

(単位：百万円)



国内外売上高推移

(単位：百万円)



【主要製品紹介】

ラフテレーンクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- 不整地走破性と小回り性に優れたクレーン
- 国内向け（4.9t～80t 7機種）
- 国外向け（13t～70t 8機種）



オールテレーンクレーン

- 走行用とクレーン操作でそれぞれ独立した運転室を持つ
- 高速走行性と不整地走破性を兼ね備えたクレーン
- 国内向け（110t～400t 5機種）
- 国外向け（110t～130t 2機種）



クローラクレーン

- ラチスブームは組み合わせにより多様な現場に対応可能
- テレスコブームはブーム伸縮により早いセットアップが可能
- 国内向け（50t～200t 6機種）
- 国外向け（55t～300t 6機種）



（単位：百万円）

売上高推移



▶ 国内

→新型コロナウイルス感染症の影響により顧客の投資意欲が減退した影響で、新車への買い替え需要が減少したため、売上高は12,347百万円の減少

▶ 海外

→国内と同じく新型コロナウイルス感染症の影響により各地域で需要は減少し、売上高は692百万円減少

【主要製品紹介】

油圧ショベル

- ・ クローラ式走行部を有する掘削機械
- ・ 不特定の場所を自走できる
- ・ 頑丈で操作性が良い
- ・ 国内向け (8t~30t 7機種)
- ・ 国外向け (8t~38t 12機種)



ミニショベル

- ・ 小型の油圧ショベル
- ・ 小回りが効くため、多様な現場で活用可能
- ・ 国内向け (0.9t~8t 15機種)
- ・ 国外向け (0.9t~13t 21機種)



クローラキャリア

- ・ 不特定の場所を自走できる運搬機械
- ・ 作業効率が良く多彩な現場で活用可能
- ・ 国内向け (3.7t~11t 7機種)
- ・ 国外向け (3.7t~11t 5機種)



(単位：百万円)

売上高推移



国内

→新型コロナウイルス感染症の影響により建設用クレーンと同様に需要は減少し、売上高は1,561百万円の減少

海外

→新型コロナウイルス感染症拡大を抑えた中国は、景気刺激策もあり需要は増加しましたが、現地メーカーによる販売価格の引き下げに苦戦し、売上高は減少しました。欧州は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で売上高は大幅に減少しました。その結果、売上は5,325百万円の減少

【主要製品紹介】

路面清掃車

- 高い清掃能力とコンパクト化を両立
- 人に優しい低騒音・高効率スイーパ
- 国内向け（2機種）
- 国外向け（個別対応）



万能吸引車

- 汚泥から粉粒体まで、多様な吸引車
- 小型から大型まで多機種を取り揃えた多彩なラインナップ
- 国内向け（9機種）
- 国外向け（個別対応）



スノースイーパー

- 強力なブラシ＆ブロー式を採用
- スピーディで効率の良い除雪作業を実現
- 国内向け（5機種）
- 国外向け（個別対応）



（単位：百万円）

売上高推移

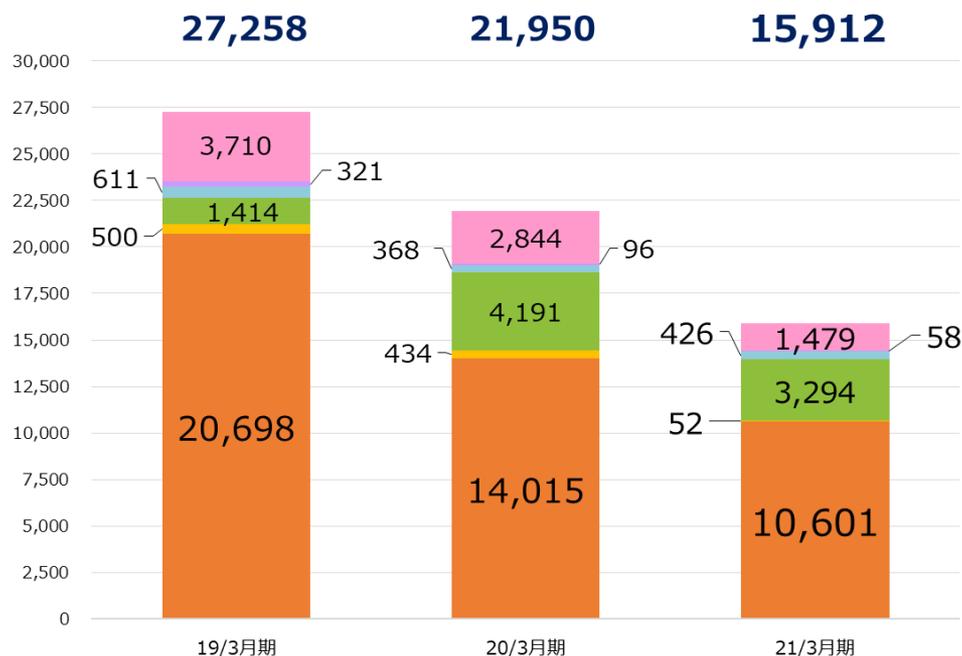


➤ 国内

→売上高は572百万円の増加

連結仕向地別売上高推移（日本除く）

(単位：百万円)



- 北米・中南米
- アフリカ
- オセアニア
- 欧州
- 中近東
- アジア

▶ アジア向け販売の減少

→中国の売上が減少するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響によりアジア各地域で需要が減少し、売上高が大幅に減少

▶ 欧州および北米・中南米地域の販売減少

→新型コロナウイルス感染症の感染拡大は各地域の需要に影響し、多くの地域で売上高が減少。また、北米においては、米国の政権交代に伴う景気不透明感から、油圧ショベル等の売上高が減少

(単位：百万円)

	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		前年同期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	20,698	75.9%	14,015	63.9%	10,601	66.6%	△ 3,414	△24.4%	18.1%
中近東	500	1.8%	434	2.0%	52	0.3%	△ 381	△88.0%	0.1%
欧州	1,414	5.2%	4,191	19.1%	3,294	20.7%	△ 896	△21.4%	5.6%
オセアニア	611	2.2%	368	1.7%	426	2.7%	58	15.9%	0.7%
アフリカ	321	1.2%	96	0.4%	58	0.4%	△ 38	△39.9%	0.1%
北米・中南米	3,710	13.6%	2,844	13.0%	1,479	9.3%	△ 1,364	△48.0%	2.5%
海外売上高合計	27,258	100.0%	21,950	100.0%	15,912	100.0%	△ 6,037	△27.5%	27.2%

- 2019年に策定いたしました「中期経営計画2019-2021 —Progress To The Next Stage— 次なるステージに進化」につきましては、策定当時から事業環境が大きく変わり、達成が困難な状況です。早期の業績改善を目的として、KATO Reborn Projectを新たに立ち上げるとともに、以下の重点テーマを掲げ、再成長に向けた取り組みを進めております。

- ✓ **製品ポートフォリオの見直しによる収益の最大化**
- ✓ **開発資源の集中による製品開発の加速**
- ✓ **グローバル戦略の見直し及びサプライチェーンの再構築**
- ✓ **抜本的なコスト構造の見直し**
- ✓ **アフターマーケットへの更なる注力**

なお、2022年3月期の業績予想につきましては、上記プロジェクトにて精査・検討を進め第1四半期決算発表を目途に開示する予定です

➤ KA-1300R 新発売

業界No.1の安全性と環境に優しいオールテレーンクレーンを目指す

～2020年10月より～

- ✓ キャリヤ部を新規設計し、欧州排出ガス規制EUROMOT 4 適合のDaimler製エンジンを搭載
- ✓ 従来のA C S通常画面に加え直感的な視認性の向上した新通常画面を設定
- ✓ アウトリガー操作用ラジコンを新規設定し、アウトリガーを目視しながらの操作が可能
- ✓ 左後方確認カメラを新規標準設定し、左後方の見えにくい範囲をミラーとカメラ映像の両方で確認することにより走行時の安全性が向上



➤ HD1025-7 新発売

低燃費と環境負荷の低減を図り、作業性が向上。整備性に優れ、快適で安全な機械

～2020年11月より～

- ✓ 新世代のクリーンエンジンを搭載。2段過給システム（2ステージターボチャージャー）により、低回転域からターボ効果を発揮し、十分なトルクを出力することが可能
- ✓ 新型コントロールバルブ、新型ポンプの採用により、操作フィーリングに磨きをかけ、サイクルタイムが13%向上（HD1023Ⅲ比）
- ✓ 旋回モーター減速機オイルの給油口、燃料タンクのドレーンをリモート化し、安全な場所から楽な姿勢で給油、水抜き作業が行うことが可能
- ✓ ロングバックレストと新構造の標準シートサスペンションにより、長時間作業でも疲労を軽減。
- ✓ また、リクライニング角度の拡大により作業中、休憩中の快適な角度に調節可能



➤ IC75L 新発売

最大積載量7ton超の大型フォワーダ
電子制御方式を採用し、最適で効率的な運搬性能を実現

～2021年2月より～

- ✓ 特定特殊自動車排出ガス2014年基準適合のクリーンエンジンを搭載
- ✓ ロングフラットの荷台に最大で7,200kg(当社IC55L比約1.4倍)の木材を運搬可能
- ✓ ICシリーズ搭載の電子制御方式走行操作システムを採用し、ジョイスティックレバーの操作のみでゆったりと座ったまま状況に応じた効率的な走行動作が可能
- ✓ 電子制御によりエンジン回転数とポンプ流量を積極的に制御し、オーバーランを防止し下り坂でも安全な走行が可能



本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社加藤製作所
総務人事統括部 IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail:ir-kato@kato-works.co.jp